



第28号

2011.3

社団法人 千葉県緑化推進委員会

特 集 今年は国際森林年

世界がひとつになって、 森林や緑のことを考える年です。このは、



国際森林年にあたり

社団法人 千葉県緑化推進委員会 会長 森 英介

このたびの東北地方太平洋沖地震の被害を受けら れた皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

心やすらかな日々が、一日も早く訪れることをお祈 りいたします。

さて、新聞等でご覧になられた方も多いと思います が、2011年は国連が定める国際森林年です。この国際 森林年は、世界中の森林の持続可能な経営保全の重要 性に対する認識を高めることを主目的としています。 世界的に植樹をはじめ、関連する会議、森林における スポーツ行事、記念切手の発行などが、また国内的に も現在取り組んでいる森林林業再生や美しい森林づ くり推進国民運動、途上国の森林保全等に対する国民 の理解の促進につなげていくことなどを目的に、様々 な活動が予定されています。

皆さんは森林と聞いて何を思い浮かべるでしょう か?きっと人によってさまざまでしょう。言いかえる とそれだけ森林は多様な役割を担っているのです。ま ず根幹となる国土の保全、そして水源かん養としての 役割、防風・防砂等、日ごろの生活を守ってくれるこ と、空気の浄化もしくはCO2吸収源、木材の生産、レク リエーションの場など・・・すぐにでもこれだけ沢山 のことが思い浮かびますね。場合によってはスギ花粉 問題や手入れの行き届かない森林の姿など、ネガティ ブな点を抱く方もいらっしゃるかと思います。

私は東京育ちですが、郷里は勝浦です。小・中学生 の頃、夏にはよく房総の海や山に出かけたものです。 ですから、森林というと、あの頃のなつかしい思い出 がよみがえります。一方で美しい海や山が身近にある ことを、ごく当たり前のことのように感じていまし た。ところが3年前、サウジアラビアに行き大変驚き ました。見渡す限り「土漠」なのです。砂漠ではなく土 漠…。そこに一生懸命散水し、みどりを作ろうとされ ていました。日本は国土の約3分の2が森林です。先進 国ではフィンランドに次ぐ2番目の森林面積です。世 界には広い国、大きな国がたくさんありますが、緑の 山々が豊富にある国というのは稀有なことなのです。

ところが日本の森林、もしくは千葉県の森林も同様 ですが、病害虫による被害や、手入れが行き届かない ことにより荒廃が進んでいるという問題に直面して います。その要員はさまざまですが、燃料革命以降、薪 炭が活用されず森との関わりが生活上薄れてきたこ と、外材の台頭による木材の価格の低迷などから森林 が手入れされなくなり、守り育てる方も極めて少なく なってきたことなどが大きな理由の一つと言われて

います。

林業というのは実に奥が深いものです。銘木を育て るためのノウハウはとても一代で築けるものではあ りません。たとえば、下草。ただ刈ればよいというもの ではなく、上手に残す考え方(手法)もあるそうです。 林道の作り方も素人にはわかりません。しっかりとそ の技、その知恵を受け継ぐべき人材を今後も育成する ことがとても重要であると考えます。このみどりなす 国土を守るため、森林に対して、幼い時から問題意識 をもってもらうこと、一刻も早く人材育成に着手する ことが望まれます。

話は変わりますが、新年、伊勢神宮にお参りしたと ころ、伊勢エビやアワビの漁獲が減少していると聞き ました。それは房総でも同じことが起こっているそう です。日本は水源がすぐに海へたどりつきますね。で もたとえばアメリカのミシシッピ-川は数カ月かか るそうです。世界に比べ、日本は森林と海の関係が、他 の国以上に密接なのです。ですから森林の荒廃が進む と、海への影響も大きいのです。

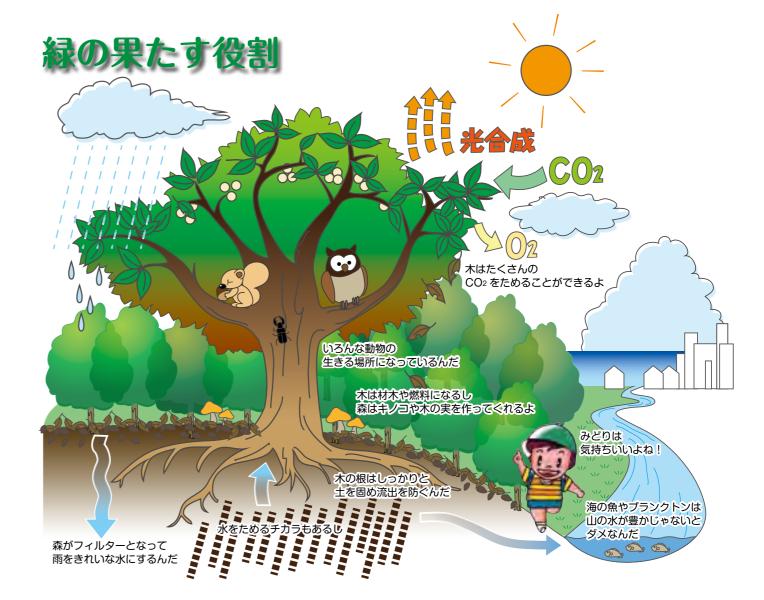
私たちが安全で健康的な生活を営めるのは森林の 有するさまざまな公益的機能の恩恵を知らず知らず のうちに受けているからにほかなりません。森林の荒 廃とその影響について、気付いてはいても緊急性を抱 くことはあまりないかもしれません。しかし、生活に 悪影響が見え始めてからでは手遅れと言わざるを得 ません。事実、その直前まで来ていると言っても過言 ではないでしょう。

国や県、その他さまざまなセクションで、森林の整 備や活用、それにより森林がうまく循環するように施 策が行われています。しかし、私はまずこのような森 林の現状とその影響を私たち一人ひとりが十分に認 識することが、日本の、そして千葉県の森林に元気を 取り戻す一番の源であると思うのです。

私たち緑化推進委員会も、この国際森林年にかけ、

一層のPR を行っていき たいと考えています。し かし主役は県民の皆様 一人ひとりです。森林に ついて何か思うこと感 じることがあれば、それ に対して何かアクショ ンを起こしていただき たいのです。場合によっ てはそれを私たちにも 投げかけてほしいので す。その積み重ねこそが いずれ大きな力となる ものと思います。





私たち緑化推進委員会は戦後の荒廃した国土の復 旧を目的に昭和25年に設立されました。

戦後の焼け野原に緑の晴れ着をと、植樹活動から 始まった [国土緑化運動 |を脈々と続けております が、この間、工場緑化、公園等の生活環境の緑化、身近 な里山の保全活動、更に地球温暖化防止を目的とす る炭酸ガス吸収源としての森林の保全と整備など それぞれの時代の要請に応えた緑化を推進して参り ました。とりわけ森林や緑の役割についての理解を 深め、緑の保全活動に主体的に参加するよう青少年 に対して働きかける「森林環境学習 | は当委員会発 足以来、緑化推進運動の眼目として一貫した事業を 行っています。

これら緑化事業の原動力となるのが緑の羽根でお なじみの「緑の募金|です。

緑の募金では、これら従前からの各種事業の実施 に加え、今後、東日本震災地域の森林整備・緑化等の 支援を行い、国土の復旧・復興、更には森林の持つ公 益的機能の回復を、国土緑化推進機構、各都道府県緑 化推進委員会が連携して取組んで参ります。

緑化の世界はまさに継続が大きな力として現れま す。県民の皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願い申 し上げます。



「国際森林年」キックオフ記念の「『美しい森林づくり』企業・ NPO等交流フォーラム」が 2月14日、国連大学「ウ・タント国際 会議場」で行われた。この中で C.W.ニコル氏は「私は 70歳を過 ぎたが、日本の森に人生を賭けている」と語り始め、「僕は美し い自然の中にいたい、街には住めない。22歳で日本に来たが、 水の神様と呼ばれた。大聖堂よりたくましく美しいブナの林を残 そうと、自分の人生の地図が見えた。イギリスは 1000年も昔に クマは絶滅したが、日本では人間と自然がともに暮らせる哲学が あると思った。40歳になって日本に住みついた」と語った。ニ コル氏は最後に「森は心のふるさと。森が荒廃したら人類は生き られない。汗と愛情を注いで、これからは(テーマを) 森にしま しょう、川にしましょう」と呼びかけた。

様に木のある生活」

家電製品の発達のおかげで、とっても便利で快適な生活がおくれるようになりました。時間にも余裕が生まれました。なのに、相変わらず忙しい毎日。そんな時にあこがれるのが"昔"のライフスタイル。かまどでご飯を炊いたり、ほうきで落ち葉を集めたり、洗濯板でゴシゴシ洗ったり…。手間ひま掛けられるって幸せなことだったのかもしれません。そういった中にいつも登場するのが"木"。どっしりとした木の家、木を燃料にして作ったお料理、木登りやイカダ遊び…。でも、現代の素晴らしいところは、そんな生活も、意外に身近でできること。今号ではそんな「木のある生活」を提案します。



"古民家"で暮らす

どっしりとした昔の家に住みたい!自然豊かな田舎暮らしをしたい!そんな、移住・定住のイメージが湧いたら、まずアプローチ先としておすすめなのが「鴨川市ふるさと回帰支援センター」。同センターは、定住や一時滞在に必要な農地、宅地、住宅、就農および暮らし方などの総合的な情報を提供してくれます。宅地建物取引業者の方と一緒に現地の物件を実際に見学できる「空き地・空き家見学会」も開催。いろいろな希望・意見をもとに、実際に見学してから物件を選ぶことができます。

移住者の声 矢川さんご夫妻

平成20年10月鴨川市に古民家を借り移住しました。 「引退したあと何がしたいか」「したいことがあるか?」と二人の会話の中で、自分は趣味として「パラグライダーがやってみた

い」という意向があり、鴨 川市に移住しました。

鴨川市ふるさと回帰支援 センター

http://www.furusatokamogawa.net/grape1/



千葉で舟といえば "さっぱ舟"でしょう!

竹竿1本であやつる木の舟のことを"さっぱ舟"といいます。かつて水の郷佐原にとって、このさっぱ舟は生活に欠かせない乗り物でした。舟の形が笹の葉に似ているから"さっぱ舟"なのか。はたまた、田んぼの端で作業をしたから"たっぱ舟"、それが転じて"さっぱ舟"なのか、名前の由来についての定説はありません。初夏、あやめ祭りの頃、香取市さわらの街を流れる小野川をこのさっぱ舟に揺られてゆくと、川風のなんと心地よいことか。エンジン音とは無縁の自然との一体感、木の感触は最高です。



昔ながらの造り方でさっぱ舟を造っている多田さん。「急ぎなら注文を受けてから1ヶ月で完成します。新造船の木の香りは何とも言えません。かつては30カ所もあった造船所(船大工)ですが、今はうちだけになってしまいましたよ」。

多田造船所

http://www3.ocn.ne.jp/~dozen/tadazosen.html

昔、木登り。 今、"ツリークライミング"

あの枝に右手をかけて、左足はこの枝分かれしたところ…。頭を使い、体をしなやかに使って遊ぶ木登り。すばらしいスポーツです。でもこれからおすすめなのは"ツリークライミング"。ツリークライミングとは、専用のロープやサドル(安全帯)、安全保護具を利用して木に登り、木や森、自然との一体感を味わう体験活動のこと。樹上からという今までとは違う視点で森を見ること、五感を使い樹上の自然を体感することで新しい発見があるはず。家族や友人と同じ木に登って時間を過ごしたり、ツリーボート(ハンモックの一種)を使って木の上でキャンプをしたり、バードウォッチングや自然観察をしたり…。楽しみは無限大です。7月31日には山武市で体験会も行われます。



TCJ (ツリークライミング®ジャパン)設立の日の TCI (ツリークライマーズインターナショナル)・ ピーター・ジェンキンス氏(左)、とTCJジョン・ギャ スライトさん(右)。

日本にツリークライミングを最初に運んできた第一人者、ジョン・ギャスライトさん (TCJ創立者)は、TCIでレクリエーショナル・ツリークライミングを学びました。その後、ツリークライミングを通じて人も森も元気になるようにと、2000年4月29日(みどりの日)に、ツリークライミングジャパン(TCJ)を設立。TCJは安全で楽しいツリークライミングを普及するため、指導者育成に励んでいます。

ッリークライミング®ジャパン http://www.treeclimbingjapan.org/

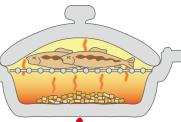
木のチップで "燻製料理" にチャレンジ!

アウトドアレジャーでは、木を熱源にした料理は今でも楽しまれています。そこで次はアップグレードして、木のチップを使った燻製作りにチャレンジしてみてはいかがでしょうか。木のチップといっても種類はいろいろ。サクラは香りが強く肉類の燻製に、リンゴはマイルドな香りなので淡白な味の食材に、ナラは色付きが良いので魚類に合うそうです。下図のような燻製道具は市販もされていますが、鍋を使わずに1斗缶で作ることもできます。



スモークウッドやスモー クチップは市販されてい ます

市販されているセラミック製の燻製鍋。チップから立ちのぼった燻煙は、密閉された鍋の中全体を対流しますので、食材全体を効率よく燻すことができます







渓流で釣れたイワナや、 アマゴもおいしくできあ がり

参考図書「おいしい燻製の作り方」 (*本誌7ページ、本のプレゼントあり)

44

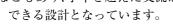


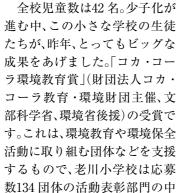




A6A

老川小学校は、雄大な自然と奥清澄の山並みに囲 まれた養老川を見下ろす小高い丘の上に建っていま す。丘を登るとすぐに目に入ってくるのが美しい校 舎です。平成14年に千葉県建築文化賞を受賞したこ の新校舎は、全体が周辺の山並みとマッチしたデザ インで、ほとんどが木材で造られています。大多喜町 は木の町であり、木材を使った学校施設は町の希望 だったのです。教室のしつらえは、学年ごとの授業も できるうえ、給食の時間や読書の時間には2学年が いっしょに過ごせるようにワークルームやタタミコ ーナーを中間に設けたデザインです。また、ふれあい ホールや屋外劇場などもあり、学年を超えた交流が





千葉県建築文化賞を受賞した新校舎

で最高の"大賞"に選ばれたのです。 地域の方々の協力を得て、老川小学校は平成15年 から全校児童が大学や博物館の方と身近な自然に触

れる体験学習を実施。学区周辺の希少動物や昆虫な どの調査を始めました。その過程で、絶滅の恐れのあ る種類の水生生物ほかを発見するなど、想定以上の 大きな成果を上げることができました。が、それだけ にとどまらず、一昨年3月には、鳥類も含めた希少な 50種類を子どもたちの目線で取り上げた冊子「老 川生き物レッドデータブック」(50ページ)を作成。 これが高く評価されての受賞でした。受賞発表会で は当時4年生の代表お二人が調査結果を説明し、「地 域の人や博物館の方といっしょに養老川をさかのぼ ったり、休耕田で自然観察したりして、在来種が外来 種のアメリカザリガニに押され減っていることもわ かった。ふるさとの自然の生態を守っていきたい |と





ビオトープも完成しました

話しました。指導してきた永島絹代先生はその頃の ことを思い出しながら「子どもたちとした"養老川 の源流から海までの70 kmの旅"は本当に実り多く、 発見と感動の連続でした。それを劇化した"しずく ちゃん物語"も上演しました」と語ります。

ところで、老川小学校の自然とのかかわりには、実 はもっと長い歴史があります。昭和58年にはすでに 当委員会の「みどりの少年団」を結団。県下各地のみ どりの少年団の団員や指導者たちが一堂に会する交 流集会では、会場である大多喜県民の森の地元校と して毎年惜しみない協力をしてくれています。そう した活動が認められ、洞爺湖サミットに関連し千葉 で開催された「G20 ちば2008 記念国際フォーラム」 には、老川小学校制作の特大絵画(縦152cm 横 300cm) も展示されました (グリーンえっせんす第 25 号でも紹介)。

さらに昨年は学校ビオトープも完成しました。作 り始めたのは一昨年の夏休み。これにも保護者や地 域の皆さんが積極的に参加・協力してくれました。 できた池には作為的に生物を入れたわけではありま せんでしたが、自然にオタマジャクシやイモリ、アメ ンボ、カエルなどが棲みつくようになりました。「ア メンボは空中を飛んできたらしいですね」。ビオトー プ作りに汗を流された末森校長先生がうれしそうに 話してくださいました。「山の湧水を利用しているせ いか、昨年の厳しい夏も無事に乗り越えることがで き、今では草もたくさん生えていますよ」。

もちろん、自然観察会は現在も進行中。4年生にな ると絶滅危惧種が多数棲む秘密の場所に連れて行っ てもらえるとあって、3年生以下の意気も盛んです。 「おじいちゃんは小さい時どんな虫捕まえた? |そん な会話が家庭でも生まれ、子どもたちの生き物への 好奇心は高まるばかり。昨年は2回もテレビで活動 を紹介されました。でも、ここまで観察会が続くと、 そろそろネタ切れなのでは?との意地悪な質問に 「子どもたちの関心は毎年変化します。だからいつも 新鮮な発見があるのですよ」と永島先生。

大多喜の豊かな自然があったからこそ、絶滅をま ぬがれて生きてきた生き物たち。そしてその生き物 や環境への愛情を、自然観察を通して強く養ってい る子どもたち。老川小学校では、都会では手に入らな い宝物のような時間と経験ができるようです。この



酒々井の自然の中に溶け込み、どっしりとしたた たずまいを湛える飯沼本家。千葉県の銘酒"甲子正宗" の造り酒屋です。従業員数は 108名。300年以上も続 く日本酒の製造業だけでなく、現在では飲食店経営 などの事業展開もしています。

日本酒は、昔から冠婚葬祭に不可欠なばかりでな く、日々の生活の中ではコミュニケーションを潤滑 にする役割、労い・励ましなどの役割を担ってきま した。また食文化ともシンクロし、まさに日本の文 化の一つとして発展してきました。一方、飯沼本家 がある酒々井町は、地名に酒という字が入るように、 孝行息子とお酒の湧く井戸の伝説が残るほどお酒と 縁の深い、水の美味しいところでもあります。その 地で収穫した米と水を利用し酒を造る…。飯沼本家 の酒は、地域の文化であり、自然の結晶でもありま した。

そうした地域との深い結びつきは、現在でも脈々 と引き継がれています。その一つが"新酒祭"です。 町おこしとして"新酒祭"をしようと集まった住民有 志の会「すいすい倶楽部」。ライフスタイルが多様化 し、日本酒がかつてほど飲まれなくなった昨今だか らこそ、地域創生をしなくては、酒々井を元気にし なくてはという理念を持っていた飯沼本家。そして 飯沼家の豊かな森の整備を 10年ほど前から進めてき た森林ボランティア「酒々井里山フォーラム」の皆さ ん。それぞれの思いが重なり合って、主催が「すいす い倶楽部」、協力が飯沼本家と「酒々井里山フォーラ ム」の"新酒祭"が実現したのです。その年最初の日 本酒ができた日のお祝い!それなら、かつて新酒が できた目印として作っていた杉玉を作ろう!森の整 備で枝打ちした杉の葉も利用できるし…。情熱がど んどん形になり、最初の年にはなんと 1,000人もの来 場者が。しかも翌年にはイベント化され、神事や太



森の整備で出た杉の葉を利用して杉玉作りも

鼓パファーマンス、子どもたちの小さな杉玉作り、 餅つきなど、にぎやかなものになりました。IR酒々 井駅にも杉玉は飾られるようになり、昨年 11月には 5回目を数え、すっかり町の祭りとして定着しまし た。

その間にも、森の整備は続けられ、今では美しい 遊歩道もできました。飯沼本家のあるあたりは、寒 い地域の植物と暖かい地域の植物が混在する貴重な 土地柄だということも判明し、そうした植物が健全 に育つよう管理にも気を配っているそうです。遊歩 道からはそうした珍しい植生も見られるそうです。 このように森の恵み、自然の恵みをいろいろな形で 感じることのできる飯沼本家の活動。「これからも今 までと変わらず、森の整備、植物の保護、地域の自然、 人とのつながりを大切にすることを、息長く続けた いです。それが酒屋の役割、地酒の意味なのではな いでしょうか?」。

嫁いで?年。インタビューに応じていただいた飯 沼幹子さんはすっかり酒々井を愛する人の顔でした。



「おいしい燻製の作り方」 料理·執筆·写直/武田良平

野外で楽しむスモーククッ キング、本格派のスモーク クッキング、燻製の基礎知識、 スモーカーの種類と使い方、 スモーカーを自作する方法、 燻製作りに欠かせない小道具

などを、著者撮影の写真をふんだんに使って紹介。 こんなものまでこんなに簡単に燻製にできるん だ。読み終わったらきっとトライしたくなるはず。 ㈱地球丸 1,450円+消費税



標高1500メートル以下の名 山100プラス11

著者/小林康彦

日帰りで歩くことができ、危 険がなく、特別な技術も必要な

く、並の体力があれば誰でも歩 けるのが低山。全国から選抜さ れた百低山には、千葉県からも

鋸山、富山などが選ばれた。イラストレーターでも ある著者の温かみのあるイラストも魅力的。テレ ビで紹介されて大人気の1冊である。

文春文庫 1.250 円+消費税

上記の本、「おいしい燻製の作り方」、「日本百低山 標高1500メートル以下の名山100プラス1」を各1名の方にプレゼン トします。ハガキに、希望する本、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(社)千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係へご応募 ください。また、グリーンえっせんすをどこでご覧になったか、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページ右下 参照。締め切りは7月末日(当日消印有効)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

豊かな自然がいつまでも残るよう祈ってやみません。 川で自然観察。何が捕まえられるかな?

A7

平成23年度 緑の募金運動

「緑の募金」は、

震災被災地域の森林整備・緑化支援等復興事業に も活用されます。皆様のご協力をお願いします。



従前の県内での各種 緑化・森林整備の事 業を実施します。 募金の一部を各都道府 県から国土緑化推進機 構に寄せて実施する中 央事業として、新たに 「震災被災地域の森林整 備・緑化支援等復興事 業」を実施します。

平成22年度の募金総額は34,711,465円に達しま した。お寄せいただいた募金は、学校や公園といっ

た公共施設の緑化や緑の少年団に代表される森林環境学習、また森林ボランティア活動の支援なに大きくた、での一部は世界規模での緑化や森林の整備にも役立てられています。



平成22年度公共施設等の 環境緑化事業を実施しました

(社)ゴルファーの緑化促進協力会並びに県内協力ゴルフ場のご協力のもと、プレイヤーによる緑

化資かせ4施樹たのどいまれた。これのというながないのといいまではないません。



市町村	場所	樹種·本数
習志野市	谷津遊路(習志野市道00-102号線)	ジャカランダ 14本
八街市	大池調整池(下流池)	ウメ(白・紅)各2本、 サルスベリ4本
酒々井町	特別養護老人ホーム エコトピア酒々井・ 千葉県人権啓発センター	サザンカ245本
匝瑳市	堀川浜トイレ	ヤタイヤシ2本

国土緑化運動ポスター原画コンクール 展示会のお知らせ

平成22年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作品展示会を下記のとおり実施します。 13,877点の応募のなかから選ばれた素晴らしい作品の数々です。次代を担う子どもたちの緑や自然に対する思いやメッセージをぜひご覧下さい。

当コンクールは平成23年度も実施します。沢山 のご応募をお待ちしております。

期間	場所	展示作品
3/22(火)	千葉市中央区新町1000	特別賞、特選、
~	「そごう千葉店 地階ギャラリー」	入選、協賛賞
3/28(月)	*最終日は16:00まで	の計75点
4/15(金)	千葉市中央区市場町1-1	特別賞、
~	「千葉県庁19階県民展示コーナー」	特選
4/22(金)	※土、日曜日は除く	の計36点
5/2(月)	佐倉市上志津1825	特別賞、
~	「千葉信用金庫 志津支店」	協賛賞
5/13(金)	※休業日は除く	の計15点
5/16(月)	成田市三里塚53	特別賞、
~	「千葉信用金庫 三里塚支店」	協賛賞
5/27(金)	※休業日は除く	の計15点
6/4(土) ~ 6/19(日)	印西市原山1-12-1 「県立北総花の丘公園 花と緑の文化館内」	特別賞、特選、 入選、協賛賞 の計75点
7/11(月) ~ 7/25(月)	柏市柏の葉4-1 「県立柏の葉公園 公園センター内」	特別賞、特選、 入選、協賛賞 の計75点
8/2(火) ~ 8/14(日)	千葉市中央区青場町977-1 「県立青葉の森公園公園センター内」	特別賞、特選、 入選、協賛賞 の計75点
9/1(木)	千葉市稲毛区天台6-5-2	特別賞、特選、
~	「千葉県青少年女性会館」	協賛賞
9/30(金)	※休館日は除く	の計39点

*会場等都合により展示期間等が変更になる場合 もございますので、最新の情報は当委員会ホー ムページでご確認下さい。

表紙の絵

表紙の作品は平成22年度国土緑化 運動ポスター原画コンクールにおい て、中学校の部、千葉日報社賞を受賞 した、渡口ひかりさん(現、中3)の作 品です。



グリーンえっせんす 第28号

2011年3月発行

発行/(社)千葉県緑化推進委員会
URL http://www.c-green.or.jp/
〒299-0265 袖ケ浦市長浦拓2号580-148
TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522
印刷/凸版印刷株) TEL.043-350-5611

※この広報誌は、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。